

# JAM熟練技能継承事業ニュース

発行：2014年6月25日  
JAM熟練技能継承推進室

## JAM加盟組合の企業で技能指導

～ 日本橋梁の従業員が「構造物鉄工」にチャレンジ ～

今年3月、日本橋梁労働組合の梅田委員長からJAM熟練技能継承推進室に電話があり、「鉄工職種・構造物鉄工作業の技能検定試験を受検しようとしているが、指導派遣を受けられないか」との相談が入りました。

指導者探しは難航したものの、他産別（基幹労連）の労組を通じて大手企業にお願いし、技能五輪を指導している熟練技能者に協力してもらうことになりました。

橋梁やプラントなどの機器は溶接構造物で造られる製品であり、鋼ハガネを切断したり、曲げたり、溶接したりして作られています。そうした加工の要素技能を総合的に推し量るのが構造物鉄工作業の技能検定試験です。

日本橋梁㈱では6名の従業員が、これまで身に付けた技能に磨きをかけて、1級の技能検定試験にチャレンジしようとしています。



＜実技試験の注意点を熱心に聞く皆さん＞

実際の技能検定試験の課題は、等辺山形鋼（断面がL字型の鋼材）と鋼板を、けがき・切断・穴あけ・焼き曲げ・切り曲げ・組立て・

溶接などの作業を組み合わせで行うもので、難易度が非常に高い内容となっています。



＜構造物鉄工1級の実技試験課題の試作品＞

特に等辺山形鋼をバーナーで真っ赤になるまで熱を加えて曲げる「焼き曲げ」は非常に難しく、指定の位置で指定の角度に歪みなく仕上げるのは、普段大きな構造物の熱処理をしているみなさんにとっても至難の業です。



＜山形鋼をバーナーで焼き(左)、曲げる(右)工程＞

指導にあたる大手企業の熟練技能者は、指導日が平日にもかかわらず、この技能指導を優先して日程調整し、指導にあたっています。

技能検定実技試験の本番は7月19日で、残された期間は1ヶ月を切っていますが、受験予定の日本橋梁㈱のみなさんは難関突破へ向けて意欲満々です。